令和3年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会　発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より"環境整備"に取組む	✓
昨年度から引き続き"環境整備"に取組む	
昨年度までの"環境整備"を経て、今年度より事業化に取組む	
昨年度までの"環境整備"と"支援チーム派遣（事業化支援）"を受けて引き続き事業化に取組む	

活動団体名：箕川未来協議会

活動地域　：滋賀県東近江市箕川町

活動におけるテーマ・キャッチコピー

箕川町再興～人間らしい感動を味わえる里

活動団体紹介

名称：箕川未来協議会

設立：２０２１年２月

活動地域：滋賀県東近江市箕川町

設立メンバー：地域住人、地域住人の子孫世代、地域事業者、自治体職員 １５名

目的：本協議会は、地域にひとときの住人として滞在しながら、山の暮らしや文化を体験できる郷として箕川町を再生し、若者の地方回帰の促進、林業の振興などを通じて、未来につながる豊かな地域づくりを推進することを目的として設置する。

活動団体紹介

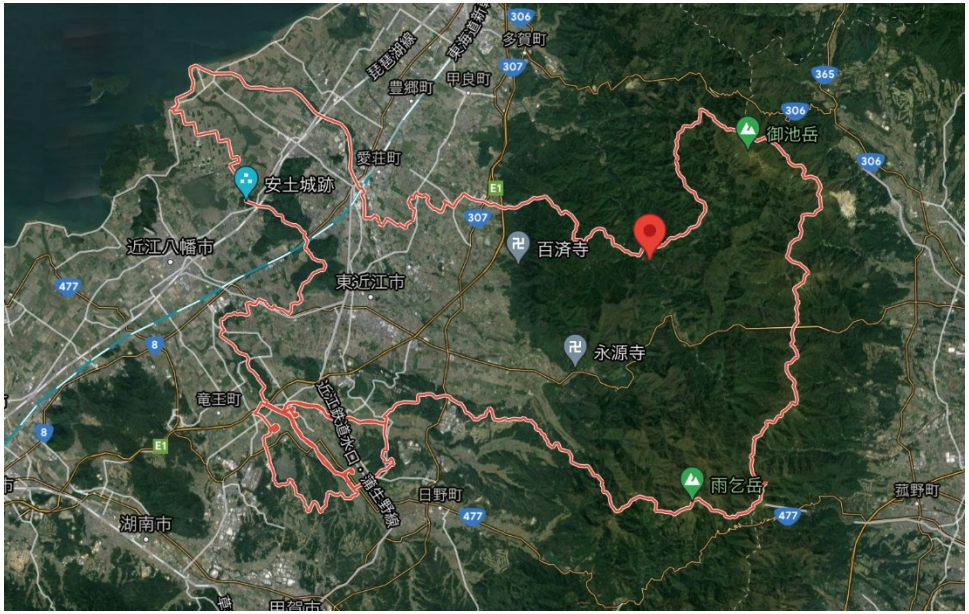
名称：箕川未来協議会

設立：２０２１年２月

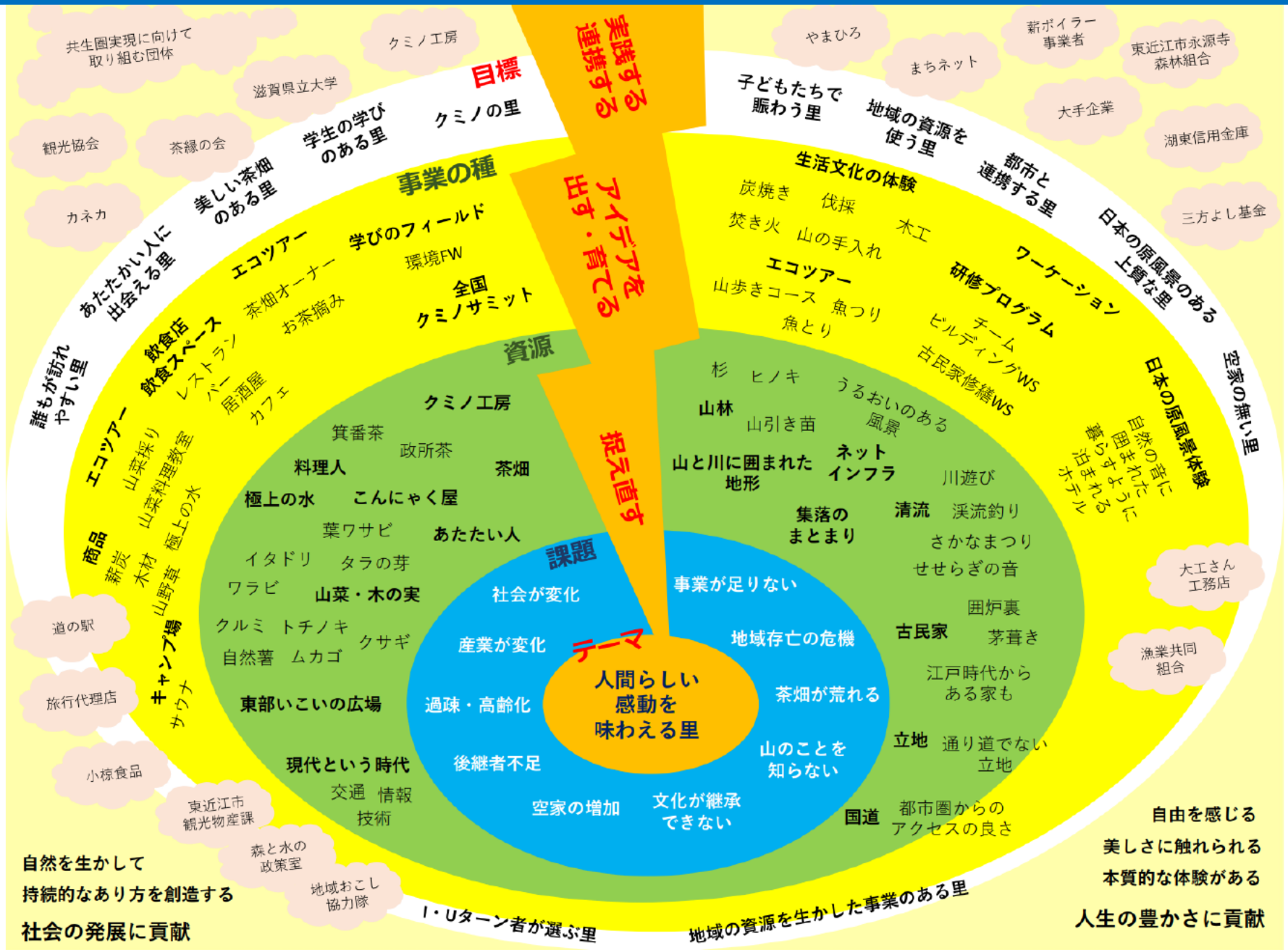
活動地域：滋賀県東近江市箕川町

設立メンバー：地域住人、地域住人の子孫世代、地域事業者、自治体職員 １５名

目的：本協議会は、地域にひとときの住人として滞在しながら、山の暮らしや文化を体験できる郷として箕川町を再生し、若者の地方回帰の促進、林業の振興などを通じて、未来につながる豊かな地域づくりを推進することを目的として設置する。



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



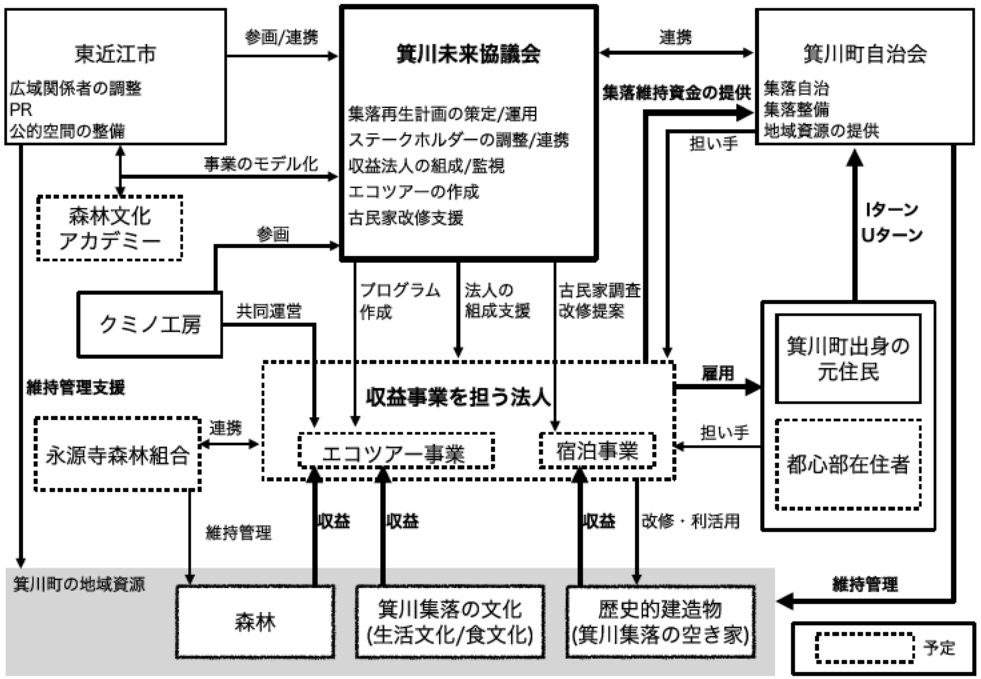
目指す"地域プラットフォーム“のイメージ

現時点での体制

箕川町は全３０戸という小規模な集落である。ここで行う事業はミニマムなプラットフォームの事例となる。

地域柄、何をしても自然の資源を活かすことが重要になる。

自立できる事業を考えたときに、投資に対する付加価値の高さから、最も見込みがあると考えられたホテル事業の開業に先ず注力する体制をとる。



環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ

・コミュニティとしての自治体・協議会と、経済的自立を志向する事業法人の協調。
・事業の体力をつけ、地域資源を捉える網目を細やかにしていく。
・あらゆる収支を黒字にする。エネルギー（木質バイオマス・太陽光・水力）も。
・ミニマムな事例は他地域・他領域でも使えるノウハウとなり、連携できる。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

- 協議会の会合を、７月・８月・９月・１月に開催。
  ありたい未来や、目指す方法について、意見を交わした。
  - 地域版曼荼羅・ステークホルダーリスト・事業のタネシート目標シートをアウトプットするという、具体的な目標があることは助けになった。
- 意見交換会で、多様な参加者と、自分たちが目指したい目標を言葉にした。
  自分たちが自分の言葉で発するというプロセスが重要であったと思う。
- 先進地視察で丹波篠山市へ。メンバーが具体的な目標を想像できる様にしたいと考え。
  古民家ホテルを運営している集落丸山と、様々なアイデアを形にしているmoccaを訪問。
- 地域の資源を生かしたイベント（山歩き・山菜料理・木工）を実施。
  協議会メンバーの関係の質の向上と、観光コンテンツの経験を積んだ。
- コミュニティビジネススタートアップ支援事業（東近江市SIB）にも取り組んだ。
  - 審査委員に滋賀県立大学の教員が入っており、
    地域の大学との連携を強化することを意識して取り組んだ。
  - エコツアー事業のコンテンツ強化のため、大学生に手伝ってもらい、地域住人への聞き書きを行い、観光コンテンツの創出に取り組んだ。また、有料ツアーの実施および、協議会活動を紹介するプロモーション動画づくりを行った。

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

協議会の会合
オフラインでもオンラインでも

環境省チームを案内、東近江市と連携しながら

エコツーリズムの
コンテンツづくり

まちづくりネット＆
大学関係者を案内

地域のありたい未来の実現のために 今年度取り組んだこと

2021年(令和3年)9月10日(金曜日) 中日新聞 16

びわこ版

空き家活用 ホテルへ

地元住民、過疎・高齢化に危機感

中日新聞記事 2021.9.10

意見交換会の開催
課題・地域資源・事業・目標から発想する

学生と
聞き書きの実施

視察対応（市議会議員・観光事業者・県議会議員）

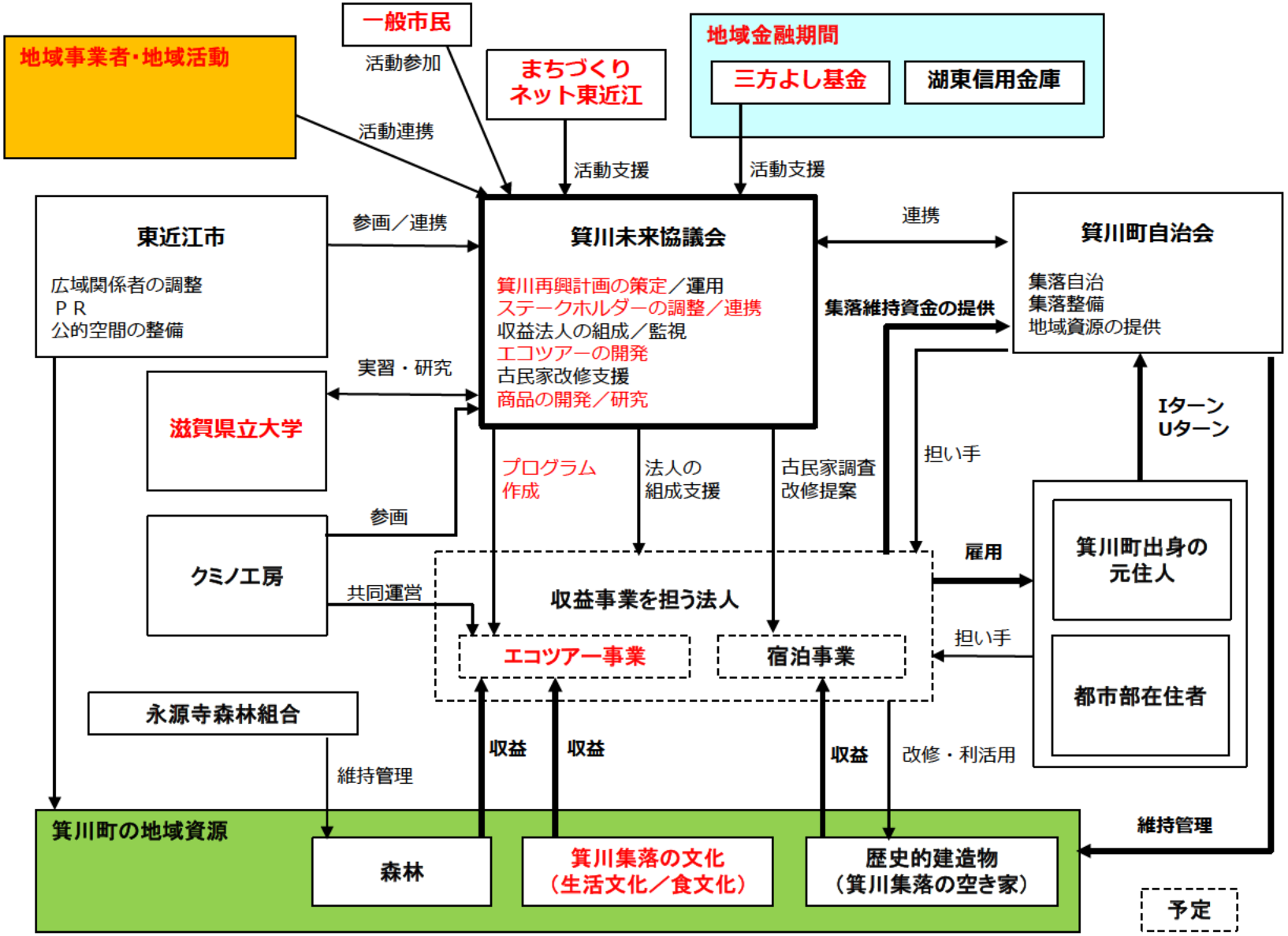
丹波篠山市へ視察

などなど…

取り組みを通じた地域プラットフォームの変化

- 箕川未来協議会の認知度が高まった。
  箕川町関係者はもちろん、周辺地域の皆さんが、活動を知るところになった。
- 新聞に記事が掲載され、想像していた以上に反響があった。
  様々な方面から、早く泊まりに行きたいと連絡が入った。
- 滋賀県立大学との連携ができた。
  意義のある形で連携を継続する為には、課題はあるけれども。
- 箕川町出身者の若者が、地域にお弁当屋さんを開業した。
  エコツーリズム事業や、宿泊事業を考えるとき、地域で食が提供できるのは非常な強み。
- 活動を紹介する機会があった
  - 長浜市市議会議員が東近江市へ視察に来た際に話題提供した
  - 東近江市議会　産業建設常任委員会委員向けに話題提供した
  - 行政に協力しながら、地域の課題を共有し、協力の相談ができている
- エコツアー事業の具体的なアイデアがいくつかうまれ、いくつかを試行することができた
  - 食を楽しむ・自然を楽しむ・ものづくりを楽しむ
- 計画だけでなく、形にしたいという意識が協議会メンバーの中に生まれてきた

取り組みを通じた地域プラットフォームの変化



取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 頭の中では十分構想できているつもりだったが、今回、成果物に書き出してみると、まだまだであると感じた。
  - もっと目標を明確にする必要がある。優先順位づけ。ストーリー化。
  - 事業計画として組み立てられていない。
- 具体的な活動を行う場合のマンパワーが不足している。
  - 過疎・高齢化の現実がある。現役世代は忙しい。
  - 自動車が運転できないと現場に来るのが困難。
    大学までは自動車で片道１時間。近いと考えるか、遠いと考えるか。
  - これから、どの様に繋がりを広げていけるだろうか。
- 事業を実施するとなると現在の協議会ではなく、法人の設立が必要と感じる。
  - 本事業の遂行に集中できる担当者が欲しい。
- 協議会としての活動の場が持てれば、もっと活動に勢いがつきそう。
  - この一年は、集会所や個人宅で集まるなどであった。
  - こんなことしたいね、を実践できる場ができれば活気が違ってくると思われる。

今後の展望

今後の展望

- 活動しながら考える
  - １軒の空き家をフィールドに、テスト事業を実施する。
  - 活動の中で新たなステークホルダーを巻き込む。
  - 変化を実感しながら関係を築く。
- 専任の人材をつくる
  - まちづくり協議会を通して、市役所に地域おこし協力隊を要請している。
  - 収益事業を担う法人の中心となる人物と出会う。
- 収益事業を担う法人を設立する。
  - 非営利法人（一般社団法人かNPO法人）を想定している。
  - ビジョンをパンフレットにして、多くの人に知られるようにする。
  - エコツアーの提供、商品の提供、レンタルスペース、宿泊事業のテスト事業を行い、小さくとも収益を上げる。
- 事業計画を立てる
  - 事業化支援のステージに進めるレベルの事業計画を立てる。

今後の展望